

『白神どうぶつ讃歌～白神の森で出あった動物たち～』訂正表

頁	行	原文	修正文
3	6	ニホントカゲ	ヒガシニホントカゲ
3	7	ハコネサンショウウオ	キタオウシュウサンショウウオ
3	7	ヤマアカガエル	タゴガエル
21	見出し	ニホントカゲ	ヒガシニホントカゲ
21	1,6,10	ニホントカゲ	ヒガシニホントカゲ
21		以下の文章を文末に補う。	(2012年, 日本に広く分布しているニホントカゲのうち, 東日本の集団が DNA の分子系統解析をもとに新種に分割され, ヒガシニホントカゲと命名されました <sup>23)</sup> )
30	見出し	ハコネサンショウウオ	キタオウシュウサンショウウオ
31	4,5,11,17	ハコネサンショウウオ	キタオウシュウサンショウウオ
31		以下の文章を文末に補う。	(2012年, 本州と四国に分布しているハコネサンショウウオのうち, 東北地方北部の集団が DNA の分子系統解析をもとに新種に分割され, キタオウシュウサンショウウオと命名されました <sup>24)</sup> )
35	見出し	ヤマアカガエル	別紙参照
35	本文全体	省略	別紙参照
94		以下の参考文献を文末に補う。	23) Okamoto, T. and Hikida, T. (2012) Zootaxa 3436:1-23. 24) Poyarkov, N. A., Che, J., Min, M. S., Kuro-o, M., Yan, F., Li, C., Iizuka, K. and Vieites, D. R. (2012) Zootaxa 3465: 1-106. 25) 「ニホンアカガエルとヤマアカガエルとタゴガエルの見分け方」広島大学デジタルミュージアム (ホームページ) より 26) 松井正文解説・前田憲男写真 (2018) 『日本産カエル大鑑』文一総合出版
96	(種名) 17	ニホントカゲ	ヒガシニホントカゲ
96	(種名) 22	ハコネサンショウウオ	キタオウシュウサンショウウオ
96	(種名) 25	ヤマアカガエル	タゴガエル

## タゴガエルの成体<sup>せいだい</sup>



大川溪流・タカヘグリにて

2011年7月23日

タゴガエルは青森県では低山地から山地の<sup>らくようこうようじゆたい</sup>落葉広葉樹帯の林床に多くみられるアカガエル属のカエルで、同じ属のヤマアカガエルやニホンアカガエルとよく似ています。3種とも<sup>はいめんりょうがわ</sup>背面両側に走る<sup>はいそくせんりゅうじょう</sup>背側線隆条を有し、タゴガエルとヤマアカガエルでは<sup>こまく</sup>鼓膜の辺りで<sup>そとがわ</sup>外側に曲がり、ニホンアカガエルでは曲がることなくまっすぐ伸びるといいます<sup>25) 26)</sup>。左の写真では背側線隆条がまっすぐのように見えますが、カメラアングルを変えた右の写真では鼓膜の辺りで外側に曲がっているのが分かります。したがって、この個体はタゴガエルかヤマアカガエルということになります。上の写真を<sup>りょうせい</sup>広島大学両生類研究センターの<sup>みうらいくお</sup>三浦郁夫先生に見ていただいたところ、“この個体の場合、決め手は背中に見える白っぽい大きなシミのような<sup>まがらもよう</sup>斑模様にあります。このような斑模様はタゴガエルに特有なものですので、タゴガエルということになります”とご教示いただきました。